

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300066		
法人名	社会福祉法人白泉会		
事業所名	グループホームかわばた荘		
所在地	岐阜県加茂郡白川町坂ノ東5467番地1		
自己評価作成日	平成25年6月20日	評価結果市町村受理日	平成25年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300066-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり・やさしく・おだやかに」を理念に持ち、穏やかに生活していただけるよう支援している。本人のできることを把握し、維持できるよう支援している。また、母体であるサンシャイン美濃白川との連携を持ち、知人との交流の場として行き来している。地域との交流の一環として、毎月1回食事会を開催し、地域の方をお招きして、昼食を楽しむ機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設時は、1ユニットであったが、平成25年3月に増築して、2ユニットの運営である。それに伴い、職員の組織体制も強化している。管理者は、職員の能力を引き出し、組織力を活かしながら、利用者が、地域の中で、生き活きと、日常生活が送れるように支援をしている。特に、利用者の視点を大切にして「ゆっくり・やさしく・おだやかに」の理念を実践している。日々、時の流れの中で、利用者の残存機能の低下をゆるやかにし、体力・気力・心の健康を支えながら、最期まで穏やかに、その人らしい暮らしができるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり やさしく おだやかに」という理念を掲げ、常に意識して介護している。住み慣れた地域での生活が継続できるよう、多くの方に来所していただき、開かれた施設を目指している。	「ゆっくり・やさしく・おだやかに」を理念に掲げ、事務所内に掲示し、職員は出勤時に確認と、会議や学習会でも共有している。そして、住み慣れた地域の中で、安心してゆっくりとおだやかな暮らしが継続できるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月発行している『かわばた通信』を利用者と一緒に配布したり、月に1回地域の方を昼食にお招きして食事をしたり、花見に出掛けたりする機会を設けている。また、野菜や花などもいただいたり、声を掛けていただいている。夏まつりにも参加し、交流を図っている。	月刊の「かわばた通信」を地域に配布して、ホームの近況報告やイベント情報を発信している。月に1回は、近隣の人を昼食に招待し、交流を続けている。また、雑祭りには、多くの子ども達を招き、楽しい時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族をはじめ、地域の方やボランティアの方にも認知症のことを説明し、理解していただいている。地域へ出掛けたり、来ていただくことで、知ってもらう機会にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、入居者の代表にも加わっていただき、会議を開催している。実践の報告をし、意見交換を行い、向上に努めている。	会議は、定期に開催している。利用者・家族・行政・民生委員・地域包括支援センター・社会福祉協議会・自治会長・福祉委員が参加し、意見や情報を交換している。地域の夜間消防訓練に、事業所も参加することを提案し、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者に聞いたり、運営推進会議を通じて、協力関係を築いている。	町とは、日常的に連絡を取り、困難事例や事故報告、又、法改正等の説明や指導を受けている。メール等でも、随時情報を交換し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解し、予防に努めている。職員が2名になる場合には、時間を限って簡易的な施錠をすることがあるが、基本的にはいつでも外出できる環境にあるので、その都度付き添うようにしている。	法人内の研修会で身体拘束の弊害について学んでいる。職員は、常に拘束の弊害を意識し、言葉による威圧や行動制限をしない様に、利用者側に立ったケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解し、予防に努めている。内出血があった場合にも報告するようにし、言葉使いにも注意するようにしている。		

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、現在家族のある方ばかりなので実績はないが、今後は制度の研修を行っていくよう予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい言葉で時間をかけて説明している。不安や疑問があった場合には説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望は、「要望・ご意見受け」に記入して全職員に伝達している。職員会議において話し合い、実践に反映している。	家族の訪問時や運営推進会議で、意見・要望を聞き、運営に反映している。家族からの、利用者の性格や習慣などの情報や意見を得て、利用者が安心できるように、スムーズな支援につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において、各職員の意見や提案を出し合い、事業に反映するようにしている。(欠席の場合でもレポート提出をしている。)また、日々の取り組みの中での意見や提案も言いやすい雰囲気を作り、すぐに対応できることは反映するようにしている。	毎月、定例の職員会議を開催している。会議では、ケアの気づき、申し送りの確認・おむつの工夫・記録時間の確保等の提案や要望を話し合い、業務の改善やサービスの質の向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や労働時間等は社会福祉法人白泉会で統一されている。年度末の会議において反省や目標等を出し、向上心を持って働くことができるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内や外部研修への参加、職員会議や日々の実践の中で意思疎通を図り、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で知り合った同業者との交流や、中津川市の施設と交流を持ち、情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や来所していただいた際に、本人の思いを伺い、少しでも受け入れていけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族の思いを伺い、少しでも受け入れていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は暫定的であるが、得た情報を基にケアプランを作成し、少しでも早く生活に馴染めるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす姿勢を大切にしている。介護する際にはさり気ない介護をするよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回の家族への手紙や電話、面会時には生活や身体状況等を伝えるようにしている。夏まつりや敬老会には家族を招いたり、家族に受診対応して頂き、支える関係を築いている。状況変化があった場合には家族と相談し、ケア方針を決めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特養やデイサービス、近隣の施設へ出向き、出会える機会を持つように努めている。地域への外出(買い物等)にも努めて出掛けるようにしている。	併設の、特別養護老人ホームの入居者や通所介護の利用者と交流の機会を設けている。馴染みの友人・知人の訪問があり、もてなしを大切にしている。馴染みの店で買い物や、帰路に友人宅を訪問したり、馴染みの場所へは、継続して訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、家事や娯楽の場面等において関わりが持てるよう配慮している。帰宅願望の強い方に声を掛けてくださることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所前の担当ケアマネジャーとの連携を密にして、家族の状況等の把握に努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や外出(草取りやお墓参りなど)の希望を伺い、家族にも意向を確認しながら支援している。	日常生活の中で、表情や態度、会話や寄り添うケアから、思いや意向を把握している。利用者を深く理解することで、本音を引き出し、安らかな暮らしができるように、思いや意向を、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用が始まる前に、本人や家族から生活歴を伺い、生活に反映できるようにしている。面会時や普段の生活の中で、情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の把握や毎日の状況の把握に努め、伝達し合っている。日々の変化に気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の状況を把握し、本人や家族の意向を把握し、意に沿う介護計画を作成している。	介護記録を基に、利用者の課題を全職員で話し合い、アセスメントしている。利用者や家族の思い、意向を聞きながら介護計画を作成している。利用者の身体状況や心理面で、新たな変化があれば、柔軟に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記載し、注意していく事柄等については伝達記録に記載し、情報を共有するようにしている。職員会議において、再確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族への助言をはじめ、他のサービス事業所の紹介なども行っている。		

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に散髪や話し相手となってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応は家族対応を基本としているが、職員が代行することもある。その際には家族に受診結果を連絡し、状況を把握してもらっている。必要に応じて、眼科や歯科受診なども行っている。	かかりつけ医への受診は、原則家族が対応している。家族の都合や、やむを得ない場合は、職員が付き添い、受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時などに身体の異常を発見した場合には、看護師に連絡し、情報を共有している。同法人の特養看護師と連携がいつでも取れる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族・利用者・主治医と連携を密にし、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の対応方針を文章で明確にしている。	ホームに入居時、書類で重度化・終末期の方針を説明しているが、理解されにくいいため、その時に応じて、家族や関係者、かかりつけ医を交えて、対応を話し合っている。	本人や家族の納得いく、終末期支援に向けて、事例検討や終末期の介護技術、尊厳にかかわることなど、学習、勉強会の継続に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修に参加し、応急手当や初期対応の訓練の実践力を身に付けるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施。夜間の消防訓練の実施を予定している。	消防署の指導で年に2回、消火器の取り扱いや避難訓練、通報訓練を実施している。母体法人に応援連絡訓練、また、夜間を想定した訓練も行っている。近隣の企業とも災害協力で合意している。	どのような災害(地震・水害)にも迅速、的確に対処できるように、対策本部の組織づくり、役割分担などに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の介護の仕方を常に意識できるように努め、言葉掛けには十分注意している。入浴は個別対応し、排泄時や居室での更衣時の声掛けや戸を閉めるなどの対応をしている。	利用者の個別性や自己主張を大切にせず、傾聴と穏やかな態度で接している。人生の先輩としてプライドや尊厳を大切に、言葉かけや介助方法を、常に意識して対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時や入浴時の衣服を選んだり、外出等の選択をしてもらえよう働き掛けている。朝食時間は、個々の起床時間に合わせて提供している。誕生日には希望メニューが提供できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や外仕事、居室での自分の時間等、本人の希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、外出時等には、自己にて衣服を選んでもらったり、化粧もしてもらっている。美容院の利用については、本人の意見を聞きながら、提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に出掛け、調理も行ってもらっている。盛り付けや配膳、下膳も、利用者に行っている。	利用者は、配膳・調理の味付け・食卓拭きなど職員と共にしている。ホームの畑で育てた野菜を料理している。利用者から、食事づくりの経験(知識)を聞きながら会話が弾み、デザートのスイカも自前で収穫して、夏の味覚を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量や好みを把握し、盛り付けや具材の大きさ等にも考慮している。一日の水分量を把握し、こまめに摂取できるようにしている。特養の栄養士と連携を取って指導してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアの介助方法を行っている。歯科受診も対応している。事業所内の研修にも参加している。		

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付け、排泄パターンを把握し、トイレにて排泄できるよう支援している。個々に合った紙パンツやパッドを検討している。	利用者の排泄パターンを把握して、表情や態度・行動を捉え、さりげなくトイレへ誘導している。紙オムツから布製下着とパッドを使用することで、不快感を減らし、排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握し、水分摂取や運動等に心掛けている。主治医や看護師の指示をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の気分を大切に、ゆっくりと入浴できるように一人30分の時間を設けている。	入浴は週2日としているが、希望により毎日でも利用ができる。入浴拒否の人は、タイミングをずらしたり、さりげなく声をかけて誘導している。柚子や菖蒲、茶葉を浴槽に入れ、季節感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息や就寝時間は個々に合った時間に対応している。照明や室温等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため、服薬介助する職員は日付や氏名等を確認し、記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方には調理や洗濯物たたみ等を、草取りの好きな方には、付き添って一緒に行っている。趣味等が継続できるよう外出支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	草取りに行きたい方には、常時行けるよう支援している。家族と外出に出掛けたり、ボランティアや家族の協力を得て、外出や花見や夏まつりに参加したりしている。	日常的に庭の散歩をしたり、野菜づくりの手入れをしている。食材や菓子の買い物、外食・演劇観賞等で外出し、また、桜・紅葉見物や法人の夏まつりに職員や家族と一緒に参加している。	

岐阜県 グループホームかわばた荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方はお金を所持してみえる。欲しい物や日用品の購入ができるよう支援している。郵便局での引出しの介助も行っている。(お年玉やお祝い)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週3回家族からの電話がある方や知人への電話への対応や、年賀状を書いたり、はがきの投函までの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室等の掃除や、季節の花や作品、写真等を掲示している。居室の照明は個々の希望に沿うようにしている。冬場の湯たんぽの使用については、個々の状況に合わせて対応している。	家庭的な玄関に、木彫りのフクロウ・小型の椅子・一輪挿しに季節の花を飾っている。また、天井も高く、落ち着いた生活空間である。居間の一角には、畳のコーナーがあり、ゆったりと思いいに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、和室やバルコニー、玄関先のベンチ等、居室以外にも自由に過ごせる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやソファ、自宅で使っていた鏡台、たんす等を持って来ていただいている。自由に壁に作品を掲示してみえる。	各室に、介護用の低床ベット・整理タンス、トイレ洗面台が設置してある。テレビ・ソファ・衣類掛け等は、自宅で使用していた馴染みの物を持ち込んでいる。壁面に、作品の絵手紙や家族の写真を飾り、安心して過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	配置換えはできるだけ行わないようにし、廊下等には必要以外の物はできるだけ置かないようにし、安全に配慮している。		